

分野	専門分野	担当者（職種）	大内 禎（専任教員）
授業科目	老年看護学概論	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	<p>老年期の特徴を理解し、老年看護の機能と役割について学ぶことを目的とする。</p> <p>1) 老いを生きる高齢者その人に焦点を当て老化理論や発達段階について理解する。</p> <p>2) 加齢変化とアセスメント方法について理解する。</p> <p>3) 高齢者の疑似体験および高齢者の話を聞くことで高齢者の身体機能、心理状態を知り、その変化が高齢者の日常生活にどう影響しているかを理解する。</p> <p>4) 介護老人福祉施設を訪問し、施設で生活している高齢者を理解する</p>		
授業の概要	<p>老年看護学は、学生自身が体験していない年齢の人を対象とするため、諸機能の変化についてはイメージしがたいと考える。そのため、講義に加えて、高齢者自身から直接話を聞く体験や疑似体験を実施する。それらの体験を通して、高齢者の身体的、心理的特徴をまとめる。さらに、実際に地域の介護老人福祉施設に訪問し、地域での生活実態を知ることにより理解を深めていく。</p>		
授業計画（回・内容・授業形態）	回数	内 容	授業形態
	1回目	「老いるということ・老いを生きるということ」 ・加齢に伴う身体的側面の変化 ・加齢に伴う心理的側面の変化 ・加齢に伴う社会的側面の変化	講義
	2回目	老いを生きるということ ・高齢者の定義 ・発達と成熟（老年期の発達課題）	講義
	3回目	老年看護における理論・概念の活用	講義
	4回目	高齢者のヘルスアセスメント	講義
	5回目	身体に加齢変化とアセスメント	講義
	6回目	健康逸脱からの回復を促す看護① ・高齢者によく起こりやすい疾患、症状	講義 課題：高齢者に起こりやすい疾患をまとめる
	7回目	健康逸脱からの回復を促す看護② ・高齢者によく起こりやすい疾患、症状	
	8回目	介護老人福祉施設の概要、利用者の理解	講義
	9回目	介護老人福祉施設「光来園」見学	現地見学 課題：事前学習、見学後の学びのレポート
	10回目	高齢者疑似体験	課題：高齢者インタビュー 演習
	11回目		
	12回目	高齢者インタビュー発表	演習
	13回目		
	14回目	エンドオブライフケア 生ききることを支えるケア	講義
15回目	まとめ・筆記試験	試験	
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
参考図書			
評価方法	高齢者疑似体験レポート10点、高齢者インタビュー10点、発表10点、筆記試験70点 ※授業科目の授業時間数2/3以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の注意	*事前にテキストを読んでくる		

分野	専門分野	担当者（職種）	大内 禎（専任教員）
授業科目	老年看護援助論Ⅰ （高齢者の生活を 支える看護）	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP2
授業の目的	加齢や健康障害に伴う生活機能の低下を理解し、必要な援助の方法について学ぶことを目的とする。座る・立つという基本動作基盤とする食事・排泄・清潔といった生活行為とそれらが繰り返し展開される生活リズム、生活に円滑に進めるために必要なコミュニケーションについて、高齢者に特有の不具合を理解し、その援助技術について学ぶ。さらに、認知症について、物忘れや認知機能の低下が起こり、日常生活に支障をきたしている状態であることを理解しその看護を学ぶ。		
授業の概要	高齢者は生理的な身体機能、認知機能の変化、そして疾患や障害に伴う変化により、それらが食事、排泄、活動などといった日常生活に大きく影響する。高齢者にとって、できる限り日常生活が自立できるよう援助の方法を学ぶ。また、認知症の原因疾患や症状、検査・診断、治療や看護について学ぶ内容とする。		
授業計画（回・内容・授業形態）	回数	内 容	授業形態
	1～3回目	認知症の看護	講義・映画視聴
	4回目	高齢者とのコミュニケーション	講義
	5～7回目	排泄を支える看護 ・腹部マッサージ ・浣腸	講義・演習
	8・9回目	食生活を支える看護 ・摂食嚥下障害のある高齢者への援助 ・食前後の口腔ケアの援助	講義・演習
	10～12回目	日常生活を支える基本的活動 ・高齢者と転倒・廃用症候群 ・安全な療養環境の整備 ・褥そう予防ケア ・創洗浄、創保護	講義・演習
	13回目	生活リズムを整える看護	講義
	14回目	浣腸実技試験	実技試験
	15回目	まとめ・筆記試験	
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版 医学書院		
評価方法	映画アセスメント5点、オムツ着用体験5点、排泄促進5点、 食事/口腔ケア5点、浣腸試験20点、筆記試験60点 ※授業科目の授業時間数2/3以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の注意	*演習後は課題を出します。		

分野	専門分野	担当者（職種）	大内禎（専任教員）
授業科目	老年看護援助論Ⅱ （健康障害をもつ高齢者の看護）	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（15時間）
対象学年・学期	2学年・前期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	<p>加齢や健康障害が心身に及ぼす影響を理解し、治療を必要とする高齢者の看護について学ぶことを目的とする。健康状態や受療状況に応じた看護について学ぶ。</p> <p>1) 治療を必要とする高齢者の看護について学ぶ。</p> <p>2) 高齢者特有のリスク要因を知り、その対策について学ぶ。</p>		
授業の概要	<p>高齢者はさまざまな疾患や障害を抱えながら生活を送っているが、検査、手術、入院は高齢者にとって生活機能や生活場が大きく変化する。また、それらの変化は高齢者自身に起こるだけでなく、家族にも影響する。それらを理解し、その場の特徴を踏まえた看護と多様なニーズに対応するための看護について学ぶ。また、退院に向けた援助のあり方については、事例をもとにカンファレンスを行い退院支援について考える。</p>		
授業計画 （回・内容・授業形態）	回数	内 容	授業形態
	1回目	検査を受ける高齢者の看護	講義・演習
	2回目	薬物療法を受ける高齢者の看護	講義
	3回目	手術を受ける高齢者の看護	講義
	4-5回目	入院治療を受ける高齢者の看護 退院調整・退院支援	講義・演習
	6回目	高齢者と医療安全	講義・演習
	7回目	リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義・演習
	8回目	筆記試験	
使用テキスト	<p>系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論 医学書院</p>		
参考図書			
評価方法	<p>筆記試験 80% 提出物、態度 20%</p> <p>※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。</p>		
履修上の注意	<p>*テキストを事前に読み予習をしておくこと。</p>		

分野	専門分野	担当者（職種）	大内 禎（専任教員）
授業科目	老年看護援助論演習	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	<p>老年期の特徴を理解し、老年看護の機能と役割について学ぶことを目的とする。</p> <p>1) 老いを生きる高齢者その人に焦点を当て老化理論や発達段階について理解する。</p> <p>2) 加齢変化とアセスメント方法について理解する。</p> <p>3) 高齢者の疑似体験および高齢者の話を聞くことで高齢者の身体機能、心理状態を知り、その変化が高齢者の日常生活にどう影響しているかを理解する。</p> <p>4) 介護老人福祉施設を訪問し、施設で生活している高齢者を理解する</p>		
授業の概要	<p>老年看護学は、学生自身が体験していない年齢の人を対象とするため、諸機能の変化についてはイメージしがたいと考える。そのため、講義に加えて、高齢者自身から直接話を聞く体験や疑似体験を実施する。それらの体験を通して、高齢者の身体的、心理的特徴をまとめる。さらに、実際に地域の介護老人福祉施設に訪問し、地域での生活実態を知ることにより理解を深めていく。</p>		
授業計画（回・内容・授業形態）	回数	内 容	授業形態
	1～2回目	長期療養施設・在宅の看護 介護老人保険施設について	講義・演習／介護老人保健施設の特徴と地域にある介護保険施設を調べる
	3回目	施設で療養する高齢者に対する支援に向けて レクリエーション等の計画書の作成	演習
	4回目	事例提示 情報収集、情報の整理	講義・演習／様式1、1-2を記載する
	5回目	アセスメント ・分析・解釈、健康上の課題の整理	演習
	6回目	アセスメント・看護診断 ・分析・解釈、健康上の課題の整理	演習／様式2を記載する
	7回目	看護診断 ・全体像・統合（関連図）	演習／様式3を記載する
	8回目	看護診断 ・看護診断について意見交換	演習
	9回目	計画立案（グループで立案する） ・看護診断、解決目標、具体策（OP,TP,EP）	演習／様式4を記載する
	10回目	計画立案 ・解決目標、具体策について意見交換 ・食事介助の計画と準備	演習 様式1～4までを記載、修正する
	11回目	嚥下機能障害のある高齢者に対する食事介助の 実際（事例をもとに計画し、実施する。）	演習
	12回目	レクリエーション準備	演習
	13・14回目	レクリエーション	演習
	15回目	まとめ／ふり返り	
	使用テキスト	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p>	
参考図書			
評価方法	<p>看護過程 54点、レク発表 30点、筆記試験 16点</p> <p>※授業科目の授業時間数 2/3以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。</p>		
履修上の注意			